

## 目次

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報	依然低調	p. 2-3
■ バター情報	欧州バター相場急落	p. 3-4
■ ホエイ情報	米国ならびに欧州産相場、引き続き軟調	p. 4-5
■ カゼイン情報	欧州における生産増により相場は引き続き軟化	p. 5
■ 乳糖情報	欧州産 米国産 好調な生産を維持 相場は軟調に	p. 6
■ チーズ情報	中国のカビ系チーズ輸入停止拡大と即解除	p. 7
	中国のチーズ輸入量	p. 7
	ロシアのバターとチーズ生産量増	p. 7
	米国 CME(シカゴ)相場	p. 7
■ 国内情報	生乳需給 回復傾向から一転逼迫傾向へ	p. 8-9
■ アムステルダム駐在員情報	フランス クロワッサン危機(French Croissant Crisis)	p. 9-10
■ メルボルン駐在員情報	カナダ大手乳業 Saputo 社が MGC 社を買収へ	p. 10-11
■ 米国駐在員情報	9月の全米生乳生産量	p. 11
	9月の主要23州生乳生産量	p. 12
	8月の米国産チーズ、バター、脱脂粉乳の輸出量	p. 12
	8月の米国産チーズ、バター、脱脂粉乳の生産量	p. 12
	9月の米国産バター、チーズの在庫量	p. 12
	米国産バター、チーズの2017年1-8月累計消費量	p. 12-13
■ 主要生産国の現行乳価		p. 13
■ 出典		p. 14

## ■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報

### ■ 依然低調

#### EU

EU産脱脂粉乳は先月からさらに弱含んでいる。EU域内の乳価が回復基調である中で、域内各サプライヤーは高い乳代を酪農家に支払うべく利益率の高いクリームを製造することに比重を置いた結果、プロダクトミックス上、需要の振るわない脱脂粉乳も製造せざるを得ず、政府介入在庫(Intervention)の受け入れ量が昨年比激減している中、ユーロ高という為替要因も相まって在庫が積み上がっている模様。10月17日に政府介入在庫の放出入札が行われたが、1,790トンの応札数量に対して落札されたのはたった40トンであった。昨年12月からスタートした放出入札では今回までの落札量が180トンのみで、約36万トンあるといわれる在庫の中には賞味期限が近い玉もあり、欧州委員会が今後どう処理するのか注目されている。何れにせよ市場に大きな影響を与えることは明白である。

EU産の全粉乳相場は回復の兆しもなく、需要も極めておとなしい。域内各サプライヤーとしても全粉乳製造にはあまり積極的ではなく、全粉乳のもう一方の主要生産国であるNZ比較、価格競争力が無い。

#### オセアニア

オセアニア産脱脂粉乳価格もさらに弱含んで推移している。低迷する国際相場に引きずられていることもあるが、今シーズン、豪州では乳価改定で生産意欲も刺激されたことに加え、天候も良く、生乳生産が好調に推移していることも理由と考える。Dairy Australiaによると生乳生産量見込みは昨シーズン対比2-3%増加を見込んでいると言う。

全粉乳についても若干の弱含みの動きを見せている。NZにおいては酪農家への支払乳代のみならず、乳業界全体に大きな影響を与えることから、全粉乳の相場下落は酪農家・サプライヤー(乳業会社)双方にとって非常に頭の痛い問題と言える。NZ生乳生産量については北島と南島で状況が異なっている模様。

北島は天候不順が原因で生乳生産量が伸びておらず、酪農家にとって厳しい状況となっている一方で、南島では酪農家は順調に乳量を伸ばしている。NZ全体として2017年8月の生乳生産量は前年同月比1.6%の減少となった。

最新のgDTの結果は下記の通り。

(2017年10月17日開催、同年10月3日比較)

脱脂粉乳: USD 1,797/MT FAS (船側渡し価格)、-5.2%

全粉乳 : USD 3,014/MT FAS (船側渡し価格)、-0.8%

#### 米国

米国産脱脂粉乳価格は現在も非常に競争力があり、需要も高い。特に2017年9月の米国産脱脂粉乳の中国向け輸出量は前年同月比、120%増、全粉乳に限っては前年同月比、231%増となっており、中国からの引き合いが非常に活発であることがうかがえる。9月の生乳生産量も引き続き好調であり、前年同月比、1.1%増加。乳牛頭数が増加していることに加え、1頭あたりの搾乳量が増加していることが理由として挙げられる。

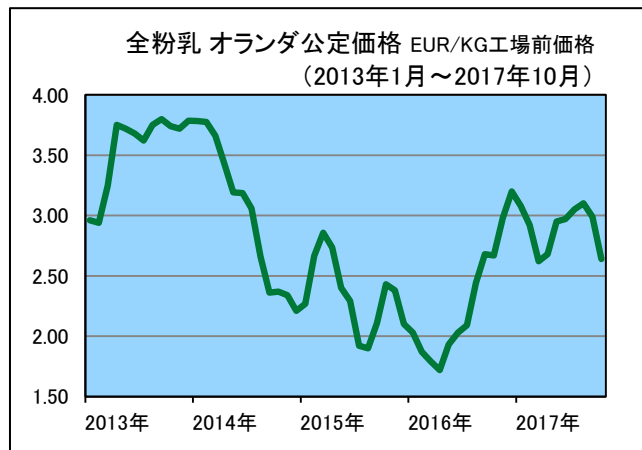
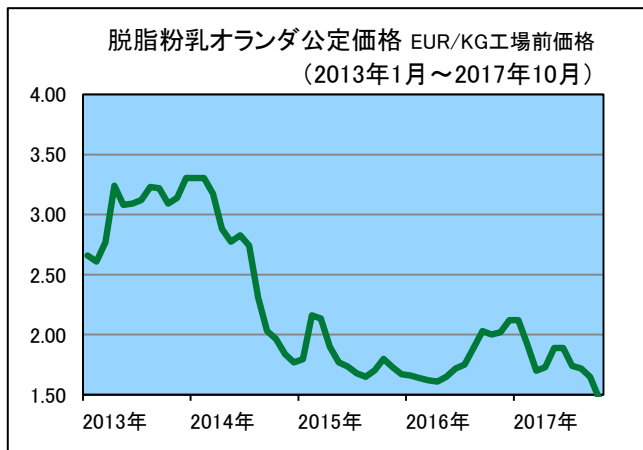
#### 今後の展望

上述の通り、中国国内の生乳生産量の伸び悩みを背景として中国の動きが活発となってきており、今後も活発な動きが継続するようであれば、粉乳相場が反転する可能性がある。脱脂粉乳については今のところ反転する要因は見当たらず、欧州委員会の政府介入在庫の処理が鍵を握る。欧州委員会としても相場を度外視して市場へ放出することは市場に混乱を招くことを理解しており、適正価格での販売を守っているが、在庫も積みあがっていることも事実であり、今後の動きには注意していきたい。

全粉乳はNZのピークシーズンの生乳生産量が予想よりも伸びていないため、供給がタイトになり、相場も急騰する可能性があることから、早めの確保が肝要であると考えられる。

現在の粉乳取引価格

EU産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	: USD 2,100 - 2,400 /MT CFR ASIAN PORT
EU産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	: USD 3,700 - 4,000 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	: USD 2,100 - 2,400 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	: USD 3,300 - 3,600 /MT CFR ASIAN PORT
米国産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	: USD 2,100 - 2,400 /MT CFR ASIAN PORT



<鷹井>

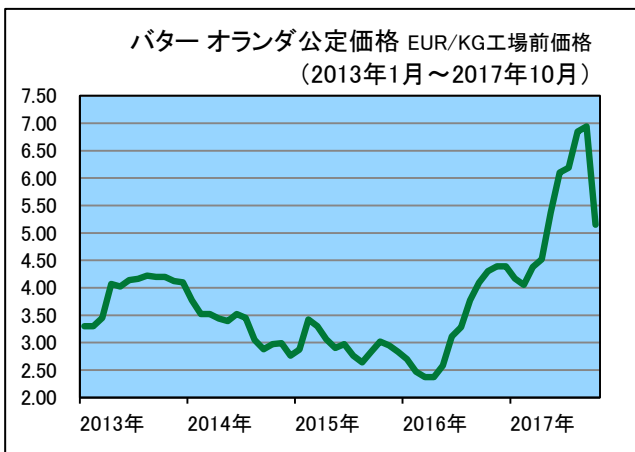
■ バター情報

■ 欧州バター相場急落

欧州

10月に入り欧州バター相場は急落した。10月25日に発表されたオランダ公定価格はEUR5,150/MTであり、先月末に発表された価格よりEUR1,790/MT下落した。

英国含むEU28ヶ国における1月から8月までのバター生産量は144万1千トン、前年比4.8%減と大きく落ち込んでいる。依然として供給はタイトであり、サプライヤーからのオファーが十分に取れない状況が続いている。フランスでは特にバター不足が深刻であり、スーパーの棚からバターが無くなり、パン屋ではバターに手当て出来ず生産量を減らしていることが、現地ニュースで報じられている。



オセアニア

オセアニアからの供給もタイトな状況が続いている。NZでは天候不順の影響で9月の生乳生産量は252万9千トンと前年比1.6%減であり、9月の生産量としては過去5年間で最も低い数量となった。1月～8月までのバター輸出量は28万1千トンと11.1%減となっている。

10月のGDTオークションは、AMFとバターで動きが異なった。1回目のAMF平均価格はUSD6,504/MT FAS(船側渡し)と前回(2017年8月15日)比3.3%下落、バター平均価格はUSD5,837/MT FASと前回比3.1%下落。2回目の平均価格はAMFがUSD6,841/MT FASで前回比5.2%上昇、バターはUSD5,736/MTで1.7%下落した。

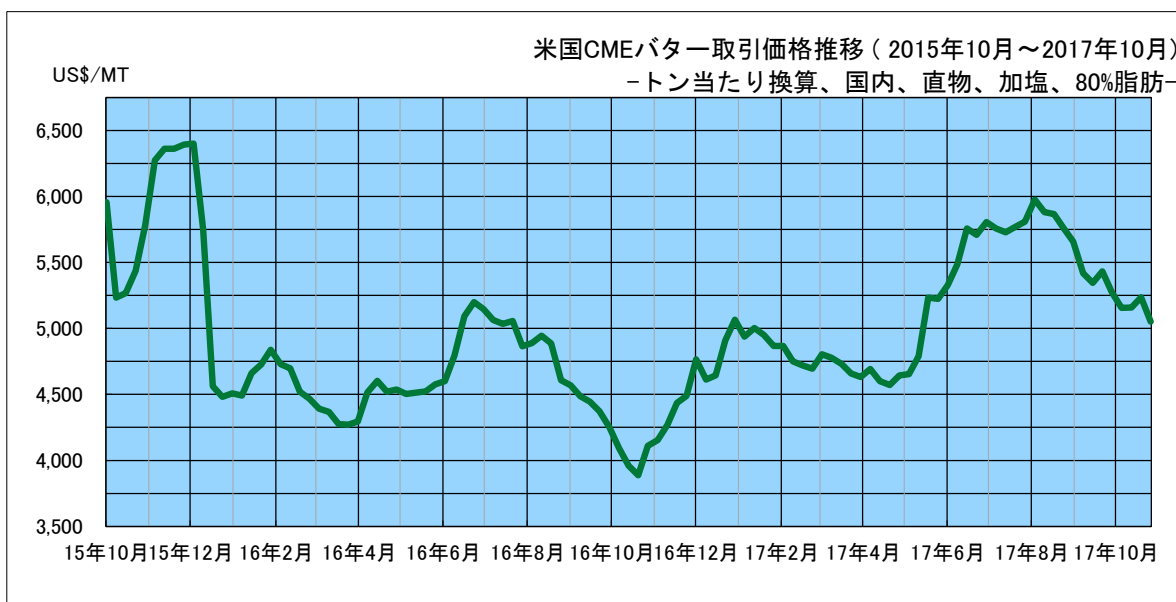
米国

相場は安定しており、9月末時点からほとんど動きが無かった。欧州の相場急落しているものの未だ米国産バターは欧州産比較、価格競争力がある。バター生産量は1月から8月の累計で前年同時期比6.21%増の56万6千トンとなった。一方で米国内バター在庫は8月時点では昨年対比-12.1%減と大幅に落ち込んでおり、国内の堅調な需要が窺える。これまで米国産バターは欧州産比較、価格競争力あったが、欧州の相場も急落していることもあり、今後クリスマスシーズンに向けて米国内での需要が更に伸びることにより、欧州産と価格が逆転する可能性も考えられる。

2017年10月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.16)

EU産バター価格	: USD7,000~USD7,800/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	: USD6,200~USD6,400/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	: USD6,500~USD6,800/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	: USD6,200~USD6,500/MT CFR ASIAN PORTS

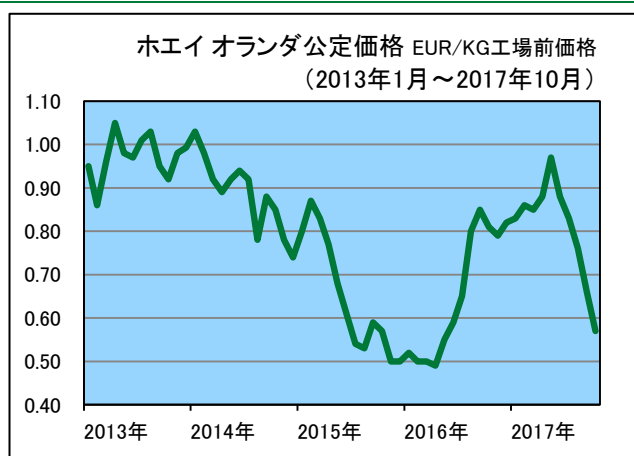


<吉田>

■ ホエイ情報

■ 米国ならびに欧州産相場、引き続き軟調

米国産ホエイパウダーの相場は前月同様、軟調傾向で進んでいる。チーズの生産好調に伴い、ホエイパウダーも潤沢に供給されており、製造者は適正在庫水準を保つべく需要家の値下げ要求などに積極的に応じている。脱脂粉乳/NFDMの相場軟調のため、タンパク質含有量が高いWPC-34などの生産を減らした上でホエイパウダーへ注力する製造者が増える可能性があり、下落傾向がさらに加速するかも知れない。NASS(米国農務省全国農業統計局)によると、2017年8月食用ホエイパウダー生産量は4万3千トンで、年同月比27.0%増。



2017年1月～8月ホエイパウダー生産量は31万7千トンで前年同時期比8.5%増となっている。

EU産ホエイパウダーの相場も引き続き軟調。供給過多の状況で需要家に値下げ交渉の余地を与えてしまっており、製造者は需要家の要望を飲まざるを得ないこともある様子。

米国産WPC-34の相場も弱含みで進んでいる。WPC-34は脱脂粉乳/NFDMとほぼ同じ量のタンパク質を含んでいるため脱脂粉乳/NFDMの代替品として使用されることが多い。上述のとおりWPC-34からホエイパウダーへ生産シフトする動き、つまり供給量減の動きが今後あるかもしれないが、現状は脱脂粉乳/NFDMの相場と歩調を合わせるようにWPC-34の相場も弱含みで進んでいる。そのため、育児粉乳向けなど高規格品を除いて在庫調整が難しい、という声も製造者より挙がっている。製造者は早急な相場回復を期待しているが、脱脂粉乳/NFDM相場に押されて今後も軟調傾向に進んでいく可能性は否定できない。NASS(米国農務省全国農業統計局)によると、2017年8月WPC-34の生産量は6,200トンで前年同月比6.5%増、前月比7.3%減。同年月末時点の米WPC-34の在庫量は1万400トンで前年同月比3.8%減、前月比5.2%減となっている。

<高野>

## ■ カゼイン情報

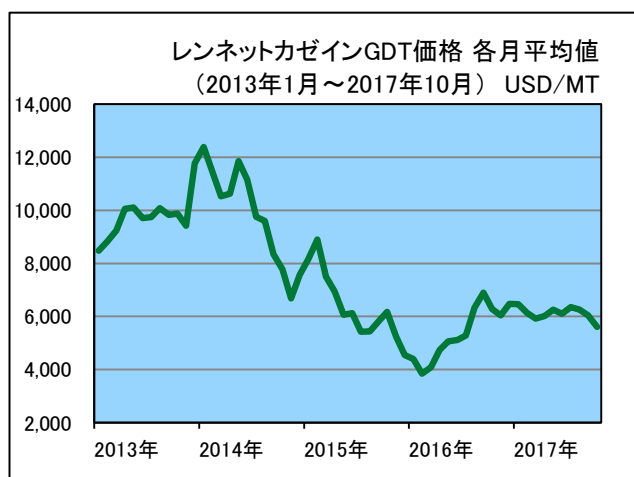
### ■ 欧州における生産増により相場は引き続き軟化

カゼイン相場は昨月から引き続き軟化しているが、供給側の状況は先月とは異なる動きを見せている。欧州では、脱脂粉乳相場低迷により一部メーカーが脱脂粉乳からカゼインに生産シフトの動きを見せており、EU域内生産量は増加している。一方、NZでは新シーズンに突入したものの天候があまり良くないため乳量は予想より伸びておらず、カゼイン生産も思ったほど伸びてはいない。

需要面では、既に今年一杯の手当てを済ませているユーザーが殆どであり、一部では2018年前半まで手配を済ませたユーザーもいる様子。そのため市場は停滞気味であり、供給過剰の結果、価格は昨月より引き続き低調。

レンネットカゼイン GDT 過去3ヵ月の落札価格

入札日	カゼイン(単位:MT)
2017年8月1日	USD6,122
2017年8月15日	USD6,255
2017年9月5日	USD6,316
2017年9月19日	USD6,036
2017年10月3日	USD6,123
2017年10月17日	USD5,612



欧州では引き続き過剰な脱脂粉乳在庫のため、カゼインの生産を増やすメーカーが多くなる見込みであり、NZの天候も徐々に回復に向かっている。従って今後のカゼイン相場についても軟調に推移するものと思われる。

<作田>

## ■ 乳糖情報

### ■ 欧州産 米国産 好調な生産を維持 相場は軟調に

#### 欧州

欧州産乳糖相場は、相変わらず弱含んだままである。チーズの域内及び輸出向け需要が強く、生産も好調を維持、原料ホエイ、乳糖生産量も安定している。需要面では、冬の製菓用途が見込まれる。しかし、EU 介入在庫過剰の影響で、脱脂粉乳の蛋白調整用途は依然落振るわない。結果として同用途向けの価格競争が激しくなっており、乳糖メーカーは余剰在庫を域外輸出に仕向け始めている。

今後については、バター相場がようやく天井をうち、下がり始めていることから、バター+脱脂粉乳の組み合わせからチーズ+ホエイへの生産シフトが予想されるため、蛋白調整用途需要は回復見込み薄であろう。一方で、ホエイ生産増加に伴い乳糖生産も増加する事が予想される。以上の理由からにより相場軟調は今後も続くものと思われる。

#### 米国

米国産乳糖相場も引き続き弱い。8月の生乳生産量は、昨年同月比 2.1%増となり、2ヵ月続けて 2%台の堅調な伸びとなった。チーズ生産量は、国内小売及び輸出向け需要が好調で昨年同月比 2.3%増と好調を維持しており、ホエイ生産量も増加している。特に蛋白含有量の高い WPI が昨年同月比 59.5%と大きく伸長した。結果として、乳糖生産量も、5.6%増と好調を維持している。中国及び東南アジアが落ち着いている事に加え、EU から価格競争力のある乳糖が入り始めたため、オセアニア産脱脂粉乳への蛋白調整用途需要に向けても契約は進んでおらず、8月の米国内在庫は 82,167トンで昨年同月比 20.6%と積み上がってきている。需要家は、相場がさらに下がることを期待し、市場動向を様子見しながら徐々に契約を進めている模様。

各メーカーは、年末までに在庫レベルを減らしたい意向があるものの、生乳、チーズ、ホエイ生産量が好調で、すぐには減らせない状況にある。これから冬の製菓用途が伸長する事が予想されるが、輸出向け脱脂粉乳蛋白調整用途は、EU 産との競合が予想され、相場は弱いままと思われる。

国別乳糖輸入量:9月時点での累計(単位/トン)

	2016年	2017年	(%)
オランダ	5,024	5,641	12
フランス	1,221	1,247	2
ドイツ	9,119	12,866	41
カナダ	2,397	2,316	-3
米国	33,846	32,742	-3.3
豪州	0	0	-
ニュージーランド	2,503	2,474	-1
その他	981	1,584	58
合計	55,091	58,834	6.8

米国からの乳糖輸出量(2017年1月~8月)

1. 中国	42,658 トン
2. 日本	30,305 トン
3. メキシコ	27,027 トン
4. ニュージーランド	22,949 トン
5. シンガポール	12,116 トン
6. インドネシア	11,592 トン
7. インド	10,874 トン
輸出量総計	232,496 トン

米国の乳糖生産量と在庫量(2017年8月)

乳糖生産量	44,361 トン	前年比 5.6%増
月末在庫	72,167 トン	前年比 20.6%増

<真野>

## ■ チーズ情報

### 中国のカビ系チーズ輸入停止拡大と即解除

中国はカビ系を中心に特定のチーズ(ブリー、カマンベール、エポワス、ロックフォール等)の輸入禁止措置を取った。先月号アムステルダム駐在員情報による既報の通り、一部の都市では7月から始まっており先月には上海にも飛び火していたものである。欧州委員会が中国側検疫との複数回の会合を行った結果、この禁輸措置は数週間で即刻解除された。EU側によると中国当局(National Health and Family Planning Commission)がこれらのチーズは消費者の健康を害するものではないと関係当局に通達したことで事態が収まった模様。今後EUは継続的にチーズのセミナーを開き混乱を予防していくとしている。

### 中国のチーズ輸入量

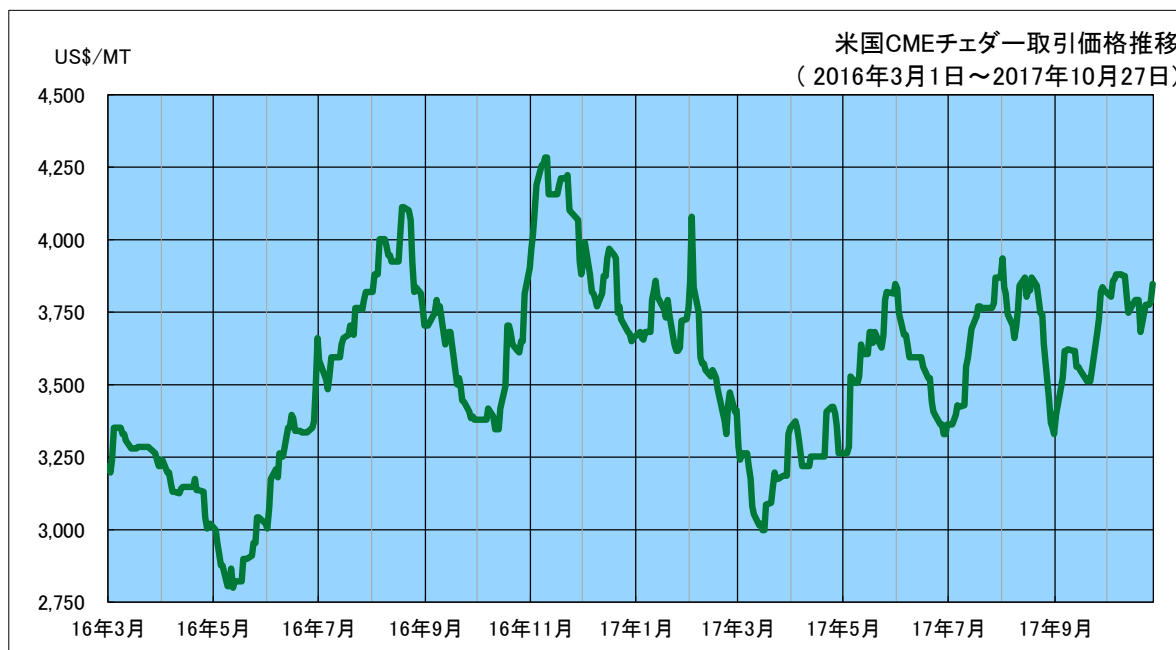
9月の中国のチーズの輸入量は5,799トン、昨年同月比で9.1%の減少、前月の8月比較、約半分に激減した。この減少は上述の輸入停止とは無関係で、同国にチーズを輸出している上位10ヶ国で唯一ニュージーランドが減少で8月比57%減。オーストラリア、米国およびEU各国はいずれも同比増。

### ロシアのバターとチーズ生産量増

同国当局Rosstatによると同国の今年1月-9月の累計のバターの生産量は昨年同期比7.1%増の20万5千トン、同チーズは4.3%増の34万7千トンであった模様。バターの小売価格は今年21%上昇したとのこと。

### 米国CME(シカゴ)相場

2017年10月のCMEスポット相場は10月2日にUSD3,809/MTから開始となった。価格は軟調に推移し10月20日にはUSD3,682/MTまで値を下げたものの、その後は堅調に推移し、10月27日時点ではUSD3,848/MTとなっている。



< 斉藤 >

## 国内情報

### 生乳需給 回復傾向から一転逼迫傾向へ

#### 生乳生産

農林水産省が発表した2017年9月の全国生乳生産量は58万718トンで前年同月比0.8%減。全国が生乳生産量は13ヶ月連続で前年割れとなった。地域別では、北海道は31万5,080トンで前年同月比0.4%の増となるも、都府県は26万5,638トンで前年同月比2.2%の減となった。北海道の生乳生産量は、2016年の8月以降13ヶ月ぶりに前年同月比プラスに転じた。17年度上期(4月～9月)の生乳生産量は、366万7,858トンで前年同月期比1.9%減となった。

9月、10月の北海道の生乳生産量は増産基調だったが、10月20日の大型台風の影響により一転し、道外移出がストップしたことにより、都府県では再度需給が逼迫した状況になっている。増産基調となった要因は、8月及び9月は過去5年間で最も気温が低く、乳房炎の減少につながったこと、冷夏のため牛乳の需要が減少したこと、エサが2017年産の良質な牧草に切り替わったことが挙げられる。しかし、10月20日静岡県に上陸した台風21号の影響により、都府県の需給は再度逼迫している状況になっている。

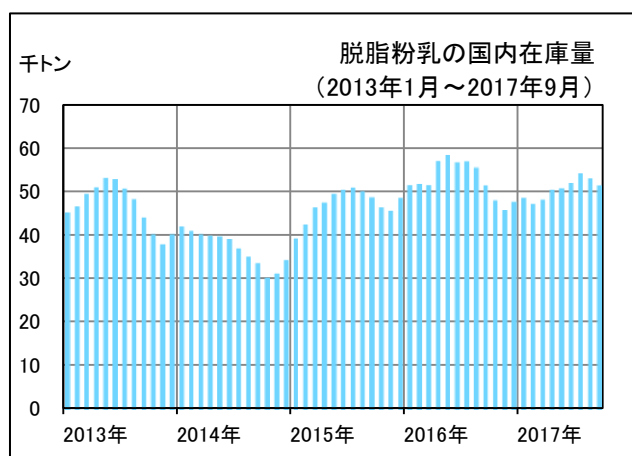
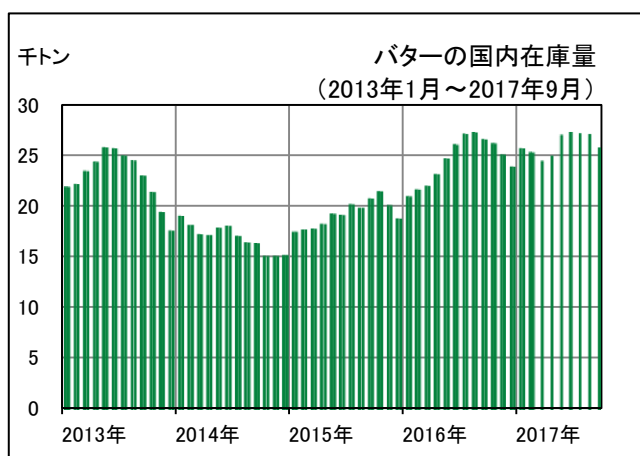
#### バター

農林水産省が発表した2017年9月のバター生産量は3,330トンで前年同月比7.1%減、在庫量は2万5,808トンで前年同月比3%減となった。バターの生産量は13ヶ月連続で前年同月比マイナスとなった。農畜産業振興機構(ALIC)は19日に2,000トンのSBS入札を実施、落札数量は424.4トンで落札率は21.2%となった。売渡結果の落札平均942,256円/トンで海外相場の影響で前回入札(9月14日)に比べ約17.3%価格が下がった。次回11月16日に2,000トンの入札が予定されており、現状公表されている入札はこの11月で終了となる。

#### 脱脂粉乳

農林水産省が発表した2017年9月の脱脂粉乳生産量は7,074トンで前年同月比3.5%減、在庫量は5万1,380トンで前年同月比とほぼ変わらなかった。

ALICは、10月26日脱脂粉乳のSBS入札4,000トンを実施し、応札数量10,065.5トンで競争倍率は2.52倍。輸入業務委託入札の落札平均価格は1kgあたり、287.385円で、売り渡し入札の落札平均価格は585.676円となった。





## 生乳生産量

(単位:千トン)

	生乳生産量	用途別内訳			
		牛乳等向け	乳製品向け		その他
			内業務用		
2017年9月	581	350	27	227	4
前年同月比	99.2%	100.2%	98.4%	97.8%	94.7%

## 2017年度、バター需給予想

(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	16,762	91.4%	15,614	99.2%	27,329	104.5%	4.6
第2四半期	12,598	87.6%	15,365	110.3%	27,062	101.7%	4.6
第3四半期	12,500	90.1%	25,162	102.3%	23,000	96.3%	3.9
第4四半期	17,600	103.6%	16,600	101.2%	29,200	119.3%	5.0
合計	59,460	93.5%	72,741	103.0%	29,200	119.3%	5.0

\*在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

## 2017年度、脱脂粉乳の需給予想

(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	32,644	97.2%	36,643	110.1%	53,700	94.6%	4.4
第2四半期	25,272	92.9%	35,887	97.2%	53,085	103.3%	4.4
第3四半期	26,800	89.9%	36,785	103.5%	46,600	97.8%	3.8
第4四半期	34,100	103.7%	36,000	101.8%	50,700	105.2%	4.3
合計	118,816	96.2%	145,315	103.0%	50,700	105.2%	4.3

\*在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

&lt;増田&gt;

## ■ アムステルダム駐在員情報

### ■ フランス クロワッサン危機(French Croissant Crisis)

フランスにおけるバター価格の高騰・バター不足の混乱をフランスの代表的なペストリーで原料の4分の1にバターを使用しているクロワッサンに掛け「クロワッサン危機」といって、各種メディアにて色々取り沙汰されている。各メディアにて取り上げられている記事を纏めると次のようになる。

世界的な乳製品・ペストリー需要の増加により、フランスの一部スーパーではバター不足となっている。バター価格はここ1年で60%上昇し、本年8月にはEUR6.70/kgに達した。バター価格の高騰によるフランスのペストリー輸出業者への影響は深刻で、ユールログデザート(Yulu Log Dessert、木株の形などをしたケーキ)といった伝統的なクリスマス菓子不足を取り沙汰している。バター不足の危機については、バター価格の急騰が予想された夏頃より報告されていた。しかし、10月22日の週にフランスの新聞が「第二次世界大戦以来のバター不足」と報じたことで、政府が消費者を安心させようと動き、危機は政治的なものへと変わった。バター不足は、ヨーロッパ、特にフランスにおける集乳量減少による影響が大きい。また、生乳がバター向けでなくクリームやチーズ向けにより多く使用されたことも強く影響している。フランスにおける脱脂粉乳価格は下落しており、脱脂粉乳の生産量が減少していくことが見込

まれることから、脱脂粉乳の生産により発生する乳脂肪を用いるバター生産についても同様と言える。バターが入手困難となり、バターが棚から消えるスーパーがフランス全土で広がっている。このような状況の中で、フランス農務水産大臣 Stephane Travert 氏は、「生乳生産量は上昇に転じており、バター不足が続くことはない」と発表した。しかし、乳業・酪農関係者は秋から冬にかけて続くだろうとしている。フランスの酪農家は、生乳・粉乳価格が安価なためバター市場の成長に見合う利益を得られていないとして不満を訴えている。世界一のバター消費国であるフランスの Emmanuel Macron 政権は、「農家が適正な価格で農産物を取引できるよう交渉することを支援する」と選挙公約に掲げており、今回の危機は頭痛の種となっている。スーパーは年間契約を行っており、フランスの消費者はまだバター価格の高騰を実際目にしていない。しかし、これはバターメーカーが他向けに販売すればよりいい利益を得られることを意味する。バターを冷凍保存するために、売り場に駆け込んで購入するお客さんもおり、スーパーの在庫不足に拍車をかけている。尚、年間国民一人当たり 8 kg のバターを消費するフランスでは話題となっているが、他ヨーロッパ諸国では冷静に受け止めている。

<藤井>

## ■ メルボルン駐在員情報

### ■ カナダ大手乳業 Saputo 社が MGC 社を買収へ

10月27日、MGC社は同社売却に関してカナダ大手乳業 Saputo社と本格的な協議に入ったことを発表した。2018年上半期中に当売却が完了する予定であることを発表しており、豪州最大の乳業会社 MGC社の買収騒動は遂に決着した事になる。最後まで買収候補の噂に上がっていた Bega社と中国企業2社を Saputo社が振り切った形となった。Bega社に関しては、MGC買収の期待感から同社株が急騰しており、混乱を避ける為に10月26日にMGC社買収の候補ではない事を発表していた。

買収金額に関しては、当初予想されていた金額(500億円相当)を大きく上回る金額となっており、MGC社の全事業資産および債務を総額13億1千万豪ドル(1豪ドル87円換算で1,139億7千万円)で Saputo社が買収する事が発表された。本取引には現 MGC 契約酪農家との生乳供給契約の履行が含まれる。乳価については、A\$0.40/kg MS(Milk Solid=乳固形1kg当たり)を引き上げてA\$5.60/kg MSとした上で、本乳業年度始まりである今年7月1日から10月31日の集乳分についても遡って同額とする事を発表した。現役の傘下酪農家に対しては、2018年度シーズン(2017年7月1日~2018年6月30日)の乳価に上乗せし MGC ロイヤリティーA\$0.40/kgMSを支給する事も発表している。Saputo社は当 MGC 酪農家の乳を責任持って集乳すること、また市場に適応した乳価に今後応じていく事を発表している。

MGC株ユニット保有者への支払額については、現在A\$1.10-1.15である株価より76-84%上乗せする事になった。MGC社売却取引完了後、概算で一株/ユニットにつきA\$0.75が一時金として支払われ、その後更なる支給が見込まれる。MGC社 Unit Trustに関する資産や債務、更に現在進行中のACCC(豪州公正取引委員会)、ASIC(豪州証券投資委員会)の調査およびグループ訴訟などに対する責任はMGCにあり、これらすべて完結後に売却完了となる。

当売却はMGC社の株主酪農家による承認、またACCCおよびFIRB(外国投資審査委員会)の承認を必要とする。当初MGC社株主酪農家の90%以上の承認を得る必要がある事が争点となっていたが、MGC社取締役会は、“会社の売却”ではなく“資産の売却”としており、株主の同意を得ることなく取締役会の権限で売却できると説明しており、今回は株主酪農家の過半数が合意すれば売却が承認されることを決定した。

この取引は、企業の売却ではなく、資産の売却とされているので、Saputo社に買収された後もMGC社の名前は残り既存の商売は現行通り継続するものと予想されるが、Saputo社、WCB社(Saputo100%子会社)、MGC社の商流、経営戦略など変更になる可能性は十分にある。またMGC社工場についても整理されると予想され、工場単位での売却、閉鎖などの可能性も考えられる。Saputo社、MGC社の今後の動向が注視される。

売却に向けたこれからの予定としては、2017年11月8日にSaputo社と共に酪農家回り、2018年初めに総会開催通知および会議資料作成(こまめにACCCおよびFIRBの承認取得)、2018また臨時株主総会を開催し、売却取引議決投票を実施予定。2018年上半期中に全ての承認を得ると売却が完了する予定である事が発表されている。

## 豪州生乳生産量

単位:百万リットル

	2017年8月の生乳生産(前年同月比)	2016年7月～累計(前年同時期比)
NSW	99.6 (+1.1%)	194.9 (+2.1%)
Victoria	494.5 (+0.3%)	929.6 (+2.3%)
Queensland	36.8 (-4.4%)	72.2 (-2.6%)
South Australia	37.4 (+2.0%)	72.3 (+1.1%)
Western Australia	30.6 (-2.8%)	62.0 (-2.5%)
Tasmania	38.2 (-1.5%)	65.3 (-0.2%)
<b>Australia</b>	<b>737.1 (0.0%)</b>	<b>1,396.3 (+1.6%)</b>

## ビクトリア州の地域別生乳生産量

単位:百万リットル

	2017年8月の生乳生産(前年同月比)	2016年7月～累計(前年同時期比)
東部	157.9 (+0.5%)	275.8 (+1.7%)
北部	139.0 (+2.0%)	268.2 (+5.2%)
西部	197.6 (-1.1%)	385.5 (+0.9%)
<b>ビクトリア州全体</b>	<b>494.5 (+0.3%)</b>	<b>929.6 (+2.3%)</b>

&lt;松本&gt;

## ■ 米国駐在員情報

### 9月の全米生乳生産量

2017年第3四半期(7-9月)の全米生乳生産量は24,289,000トンで前年同期比1.7%増となった。また、2017年第3四半期の全米平均乳牛頭数は940万頭と発表され、前年同期比71千頭増、前期(4-6月)比では4千頭増となった。

## 2017年9月主要州別生乳生産量(前年同月比)

カリフォルニア州	1,391,056トン	-3.4%	(-49,486トン)
ウィスコンシン州	1,115,932トン	+0.8%	(+8,626トン)
ニューヨーク州	546,616トン	-0.4%	(-2,270トン)
アイダホ州	557,058トン	+0.2%	(+908トン)
テキサス州	433,570トン	+10.0%	(+39,498トン)
ミシガン州	413,140トン	+3.4%	(+13,620トン)
ペンシルバニア州	396,796トン	+1.7%	(+6,810トン)
ミネソタ州	360,930トン	+3.2%	(+11,350トン)
ニューメキシコ州	295,100トン	+4.0%	(+11,350トン)
ワシントン州	246,068トン	-0.7%	(-1,816トン)

## 9月の主要23州生乳生産量

米国農務省(USDA)の発表によると9月の主要23州の生乳生産量は735万4,800トンで前年同月比1.2%増となった。先月発表の8月の生乳生産量は前年同月比2.2%増の771万8千トンへ修正された。主要23州における9月の一頭当たりの平均搾乳量は約840キロで前年同月を約2.7キロ上回り、2003年に統計データを取り始めて以来9月単月の数字としては過去最高となった。主要23州における9月の平均乳牛頭数は874万頭と発表され、前年同月比73千頭増、前月比では3千頭減となった。

## 8月の米国産チーズ、バター、脱脂粉乳の輸出量

8月の米国産チーズの輸出量は、前月比11%増、前年同月比35%増の3万418トンとなった。この数字は過去5年の8月単月平均の2万4,062トンを大きく上回っている。モザレラに代表されるフレッシュチーズの輸出量は前月比3%増、前年同月比11%増の9,080トンとなった。米国産フレッシュチーズの輸出先として最大の韓国は全体の22%を輸入している。8月の米国産チーズ輸出は総じて好調であり、メキシコ向けが前年同期比29%増、日本向けが96%増となった。

8月の米国産バターの輸出量は、前月比21%増、前年同月比187%増の2,815トンとなった。8月の米国産脱脂粉乳の輸出量は、前月比16%増の4万9,077トンへ改善したが、前年同月比では6.4%下回っている。しかしながら、この数字は過去5年の8月単月平均の4万5,400トンを上回っている。

## 8月の米国産チーズ、バター、脱脂粉乳の生産量

8月の米国産チーズの生産量は46万7,620トンで前月比では0.7%減となったが、前年同月比では2.3%増となっている。このうちモザレラの生産量は15万2,453トンで前年同月比2.3%増となった。

8月の米国産脱脂粉乳(SMP/NDM)の生産量は8万2,628トンと落ち込み前月比8.9%減となったが、前年同月比では依然として10.9%上回っている。このうちNDMの生産量は6万1,926トンで8月単月の数字としては過去10年で最高となった。一方でSMPの生産量は2万0,702トンで、前月比12%減、前年同月比2%減となった。8月の米国産バターの生産量は前月比3.4%減と落ち込んで5万9,565トンとなった。

## 9月の米国産バター、チーズの在庫量

米国産バターの9月末時点の在庫量は前年同月比4.5%減、前月比10,442トン減の11万6,678トンとなった。8月から9月に掛けての在庫量の減少幅は1万1,804トンで過去5年平均と同じ水準となっているが、過去5年の9月末時点のバター在庫は9万4,432トンであったことから現在の在庫水準が例年と比べて高いことが判る。

9月末時点でのチーズの在庫量は59万2,470トンで前月比では1万2,712トン減となったものの前年同月比では5.7%増となっている。アメリカンタイプチーズの在庫量は35万3,212トンで、前月比では2.9%減となったものの前年同月比では4.7%増となっている。スイスタイプ等他のカテゴリーのチーズにおいても8月から9月に掛けて在庫量は減少しているものの米国のチーズ在庫量全体で見るとアメリカンタイプチーズの減少による影響が最も大きい。

## 米国産バター、チーズの2017年1-8月累計消費量

米国産バターに関しては国内消費が伸びていると同時に輸出量も増えている。2017年1-8月累計の国内バター消費は53万2,542トンで前年同期比3.9%増となっている。国内消費が2.8%増と拡大しているのに加え、輸出向けも前年同期比46%増の1万3,257トンに増えている事が大きな要因となっている。米国産チーズの消費に関して、低調であった7月より一転し、8月は前月比8.3%増、前年同月比2.2%増の49万3,952トンと回復した。2017年1-8月累計の国内チーズ消費も376万5,930トンで前年同期を24%上回っている。好調な理由としては、アメリカンタイプとそれ以外のタイプのチーズのいずれにおいても前月、前年同月を上回っている事が挙げられる。アメリカンタイプチーズ

の8月単月の消費量は前月比13%増、前年同月比2.1%増の19万5,674トンへと急増し、それ以外のタイプのチーズの消費量についても前月比5.4%増、前年同月比2.2%増の29万8,278トンと拡大している。輸出に関しても同様に伸びており、アメリカンタイプチーズの2017年1-8月累計の輸出量は4万3,130トン、それ以外のタイプのチーズの2017年1-8月累計の輸出量は18万7,956トンでともに前年同期比約23%増となっている。

<佐藤>

## ■ 主要生産国の現行乳価

	円換算乳価※1	直近の乳価	適用期間
日本	¥98.61/㍓	¥95.65/kg※2	2017年8月
ドイツ	¥50.95/㍓	EUR37.44/100kg	2017年8月
オランダ	¥52.40/㍓	EUR38.50/100kg	2017年7月
アイルランド	¥47.58/㍓	EUR34.96/100kg	2017年8月
米国	¥44.43/㍓	USD17.30/100ポンド (100ポンド=45.3592kg)	2017年7月
豪州	¥37.00/㍓	AUD5.50/kg MS(乳固形 kgあたり)	2017/18年度
NZ	¥40.71/㍓	NZD6.75/kg MS(乳固形 kgあたり)	2017/18年度

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。  
為替レート: EUR=¥132.00 / USD=¥113.00 / AUD=¥87.00 / NZD=¥78.00

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

<出典>

日本 : 農畜産業振興機構  
EU : European Commission  
米国 : CLAL  
豪州 : Murray Goulburn HP  
NZ : Fonterra HP

お問い合わせ先：  
株式会社ラクト・ジャパン  
webmaster@lacto-japan.com

出典：  
 AGRA EUROPE 各誌  
 Dairy Dairy Report  
 Dairy Industry Newsletter  
 農畜産業振興機構“畜産の情報”  
 AMS Dairy Market News  
 日刊酪農乳業速報  
 Rice Dairy  
 NZ Herald  
 Stuff.co.nz  
 食品産業網  
 Weeklytimes  
 USDEC Export Trade Data  
 Global Trade Information Service  
 USDA's Dairy Market News  
 Australian Financial Review  
 食品産業サイト  
 経済日報  
 東方ネット  
 長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。